

名古屋市立大学医学部附属西部医療センター

病院長名	大原 弘隆
所在地	〒462-8508 愛知県名古屋市北区平手町 1 丁目 1 番地の 1
交通案内	名古屋市営地下鉄「黒川」、「名城公園」又は「庄内通」駅より徒歩 20 分 名古屋市営バス 栄 11・名駅 13 他「西部医療センター」下車すぐ（時間帯によって「志賀公園前」下車徒歩 2 分）

□ 病院の特徴

西部医療センターは、地域の中核病院として親しまれてきた城北病院と城西病院を前身とします。2011 年にクオリティライフ 21 城北内の現在地に新築移転し、両院を統合した名古屋市立西部医療センターとして運営を開始。以来、小児・周産期医療、がん医療、脊椎医療、救急医療の拡充に取り組んできました。2013 年 2 月には名古屋陽子線治療センターを開設し、東海 3 県で初めてとなる陽子線がん治療をスタート。また同年 9 月には地域医療支援病院の承認を受け、2019 年 4 月には地域がん診療連携拠点病院に指定されました。2021 年 4 月より名古屋市立大学医学部の附属病院となり、名古屋市立大学医学部附属西部医療センターに改称しました。病床数は一般病床 500 床で、診療科数も 33 診療科を標榜しており、ほとんどの疾患に対応できる研修体制を整えています。

□ 研修プログラムの特徴

【特徴】

- ・スタッフが充実しているため、専門研修の他、積極的に学会や研究会にも参加することが可能で、短期間に知識や技術を研修することができます。
- ・小児科以外の他科との連携が密であり、研修中に診療科を超えた専門研修も体験できます。
- ・連携施設では PICU における小児三次救急も研修可能です。
- ・3 年間の専門研修で「小児科総合医・専門医」の名にふさわしい医師に成長できます。Nobunaga が育った地で納得のいく研修を提供させていただきます。

【プログラム例】

1 年目（当院）－総合医としての小児プライマリ・ケアを習得するために、指導医と共に小児 2 次救急、NICU の初期対応を研修する。病棟では小児医療センター、周産期センターに入院してくる患者を指導医と共に主治医として受け持ち、アレルギー、内分泌、神経、腎臓、感染症、発達障害、新生児、血液・腫瘍、臨床遺伝相談といった小児・新生児疾患に対する知識を深め、診療技術を習得する。

2 年目（当院 or 連携施設）－希望する研修分野に応じて、連携施設で 3 か月～6 か月をめどに関連施設研修を行い、専門医としての知識・技術を研修する。

3 年目（当院）－初年度専攻医とペアになり、研修を進めながら、論文執筆、小児科専門医試験の準備を始める。



小児医療センター



□ 主な連携施設

- 名古屋市立大学病院（名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1 番地）
- あいち小児保健医療総合センター（愛知県大府市森岡七丁目 426 番地）
- 独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター（名古屋市中区三の丸四丁目 1 番 1 号）
- 蒲郡市民病院（愛知県蒲郡市平田町向田 1-1）

□ メッセージ

指導医：伊藤 康彦（小児医療センター長）

当院の特徴としては、すでにサブスペシャリティを持っている医師が多いことです。このことは後期研修医に 2 つのメリットを生むと思われます。1 つ目は疾患に関する深い理解です。専門性を持つ医師のもと研修を行えば、疾患に対し、より深い病態の理解や最新の治療法を学ぶ機会が増えます。ファーストネームの論文を持つことが小児科専門医受験の必須条件となりましたので、論文指導を含め充実した症例検討を行います。2 つ目は後期研修後のサブスペシャリティ選択の参考になります。プログラム上、研修 2 年目に半年間、他の病院でしか研修できないサブスペシャリティもありますが、後期研修医が小児科専門医取得後の将来像を描く際の道標になると思われます。当院は 2 次救急までで救急の重症度は高くありませんが、その分他の疾患に対してじっくり取り組める環境にあると思います。



□ 募集要項

・採用予定人数	3 人
・給与／月額	548,000 円
・当直回数／月	5 回程度
・当直料／回	二次救急当直（23 時まで）26,000 円、NICU 当直 25,000 円（日直及び翌日が休日の場合は 31,000 円）
・その他	
・応募連絡先	担当者 病院管理部管理課庶務係 電話番号 052-991-8121 Eメール a9918121@sec.nagoya-cu.ac.jp